

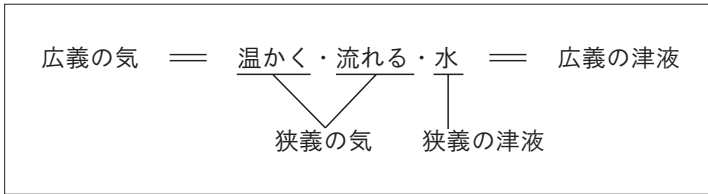
◆ 気虚と陽虚——質と量より

一般的に中医学においては、気虚に寒象を兼ねるものを陽虚としています。しかし、これはかなり曖昧な表現であり、気虚と陽虚の本質的な違いについて考察すべきです。

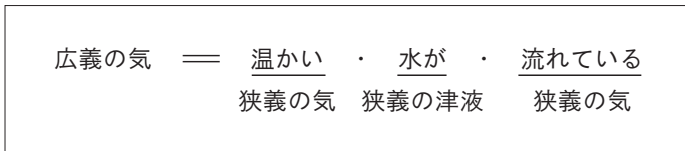
陽虚・気虚ともに、軽症のものから大変重症のものまであります。したがって、軽症の陽虚と重症の気虚を比較すると、病気としては当然重症の気虚の方が酷い。必ずしも陽虚の方が気虚よりも重症とはいえません。

気虚が憎悪して陽虚になることもあります。本来、気虚と陽虚は本質的に異なる概念であると認識すべきです。

以下に、それについて説明します。



動的に表現すると



温かい： 1) 熱い, 2) 温かい, 3) 温かくない

流れている：

- ① 1) 流れる量が多い, 2) 流れる量はふつう, 3) 流れる量が少ない
- ② 1) 流れが速い, 2) 流れはふつう, 3) 流れがゆっくり

以上、温かさ・流れをそれぞれ、程度に応じて3つに分けることができます。

広義の気は一般的には、狭義の気と狭義の津液とのバランスがとれた状態にあります（陰陽の調和）。しかし激しい運動時、あるいは病邪の侵入に際して邪正闘争を行う場合、胃気は鼓舞され通常の数倍にパワーアップされますが、この時パワーアップされるのは主として狭義の気です。

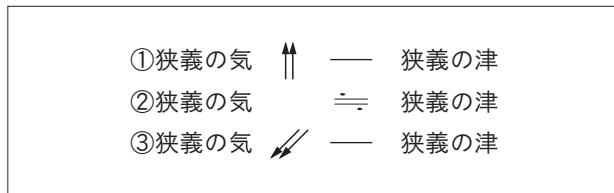
狭義の気は「熱」をもっており、そのため熱の産生が激しくなり発熱します。

いわゆる陽病はこのタイプです。

一方、邪正闘争の場において、狭義の気のパワーアップができないものもあります。これが陰病です。

病気ではない各個人の広義の気についても（体質）、狭義の気が①相対的に多い人、②狭義の津とほぼ均り合っている人、③相対的に少ない人の3つになります。①のタイプは暑がりで行動的、③のタイプは寒がり冷え症です。

病理においても同様に、狭義の気が①相対的に多い人、②ほぼ均り合っている人、③相対的に少ない人の3つになります。



③のタイプの人相対的に狭義の気が少ないため、熱産生が悪化しています。いかえると質的に劣化した広義の気しか産生できません。

したがって、例えば寒邪が侵入しても狭義の気のパワーアップがおこらず、陰病となるのです。

「陽虚」とは、このように広義の気における狭義の気の減少したものであり、質的に劣化した気を有しているものともいえます。（狭義の気の少ない広義の気）

質的に劣化した（熱産生の少ない）気が全身に供給されると、顔色は青白く、全身が寒く、手足も冷え、酷いと厥冷となり、全身の臓腑の機能も劣えます。

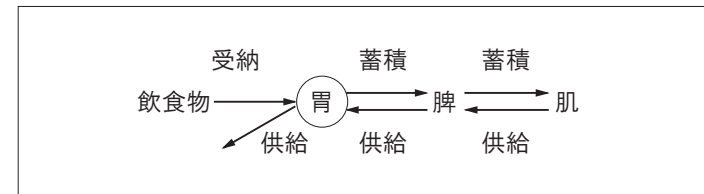
一方、広義の気における狭義の気と狭義の津が、そのバランスを保ったまま量的に減少したものが「気虚」であり、広義の気における質的な変化ではなく量的な問題です。

例えば、正常な人間でも何日間か食物の摂取ができずに歩きつづけるなどの運動を行うと、広義の気の産生は低下し、疲れる・全身倦怠感などが出現します。しかし、寒がる・手足の冷えなどはありません。しかし、このような状態が更に長くつづくと広義の気の量的な問題が質的問題に変化し、気虚から陽虚となる可能性はあります。

#### ◆ 狭義の気（熱）の産生について

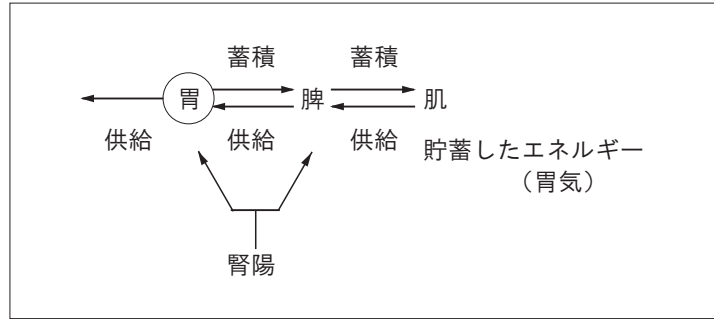
人間は飲食物を摂取して生きています。

しかし、1日中摂取しているのではなく、食事時間は3食合わせても、1日の中でせいぜい1～2時間であり、他の時間は蓄積したエネルギーを使用しています。



飲食物から取り入れた精微物質はエネルギーとして使用され、残りはエネルギーの蓄積（グリコーゲン・脂肪）、また体の血肉をつくり維持するために使用されます。

これらの作用は胃の守胃作用・脾の蓄積作用・胃の供給・脾の供給作用によりなされ、さらに腎の作用も必要となります。



広義の気の産生は、食事から直接的および蓄積された胃気（脾肌に貯えられる）を引き出すことによります。当然、狭義の気もこの過程で産生されます。

これらより狭義の気の産生に関与するのは、胃・脾・腎における陽気ということが出来ます。広義の気が温かさをもつのはこれら二臓一腑の作用によります。他の臓腑はこの産生された狭義の気を含む広義の気の供給を受けて、機能しています。

#### ◆ 生薬の面から

生薬の中で乾姜は胃・脾の陽気を、附子は腎の陽気を鼓舞し、狭義の気の産生を高め、熱産生を助けます。

#### ◆ 結論

広義の気における狭義の気の減少しているものが「陽虚」であり、広義の気の量が減少しているものが「気虚」です。

#### ◆ 補足

1) 『傷寒論』『金匱要略』において、人参は生姜あるいは乾姜と併用されることが多いです。

人参：守胃・脾肌への胃気の蓄積

生姜・乾姜：胃・脾肌から全身に気を供給，人参と生姜（乾姜）の組み合わせにより，胃気の供給と蓄積をバランスよく行っています。

黄耆も胃気の全身への供給を行うので，黄耆・人参の組み合わせは，人参・生姜の組み合わせと近いといえます。